

財っ子通信 平成28年度 第6号

文責 校長：三樹和幸

やりたいこと できることが増え

やらなければならないことが確実に定着し みんなが伸びる学校

財光寺小学校

電話：54-2825

校長 Email:

zaikoji-k@hyugacity.jp

第61回日本九州ブロック研究大会みやざき大会が、10月29日(土)、30日(日)の2日間にわたって、九州各県から8千人を超える参加者を迎え、盛大に開催されました。初日は宮崎県内10分科会場で、2日目は宮崎市のシーガイアコンベンションセンターで有意義な発表や、協議、講演が行われましたので、それらを紹介します。

キャリア教育に焦点を当てた取組から感じること

熊本県宇土市立綱田中学校と鹿児島県志布志市立松山中学校の2校のPTAが、キャリア教育の支援の在り方についての発表をしました。それぞれの地域で子どもを育む根っこに、「何のために学ぶのか」「何のために働くのか」「そのために、今何をすべきか」といったキャリア教育が重要な位置を占めていると感じました。

その後、日向市の大王谷学園中等部の飯干教諭の発表と「よのなか先生」の成合氏をパネラーに加えた発表があったのですが、これが本当に良かったです。大王谷学園は、職場見学や職場体験を終えた中等部の3年生が、年間10回の「よのなか教室」で、様々な方の価値感に触れ、自分を見つめ直し、将来の準備を始めています。本校でも、同様のことが多く行われているのですが、大いに学びました。

また、保護者有志で、様々な職業の疑似体験や話を聞けるブースを作って、地域の子供たちに、様々な職業を学ぶ機会を作っているのにも驚きました。ヘアデザインではなく、その記事を書く仕事であったり、実際に電話を繋げる疑似体験であったり、学校だけではできないことを地域でチャレンジしている姿に感銘を受けました。

先日の宮日では、東大の教授が原因を解明できずに2年間も病気に苦しんでいた患者の治療方法をAI(人工知能)で分析してもらって、その処方を試したら、1ヶ月で完治したとありました。日本で一番の頭脳をもつ人の仕事でさえ、機械に取って変わられる時代はすぐそこに来ているのですから、少々の失敗でも跳ね返す力や旧来の価値感で縛られない判断力を育てたいと決意を新たにしたところです。そういう意味では、キャリア教育を、さらに充実させたいと考えています。

大きな大会を運営する裏方の仕事ぶりから感じること

今回の九州大会は、美根九州大会実行委員長(平岩小中)や椎葉日向市PTA協議会長を中心に準備が進められ、大きな成果を上げることができました。この二人の緊張感や責任感は並大抵のことではなかったはずですが、大会の失敗は、日向市の失敗であったり、宮崎県の失敗として評価されるからです。会の終了後に、多くの協力者に感謝の気持ちをおっしゃる中に、キラリと光るものが二人の目から見えました。スタッフへの感謝の気持ちで言葉も詰まってらっしゃいました。本校からも立山PTA会長を始め、複数の方に運営に関わって頂きましたが、見えない陰の支えが、大会を成功に結びつけたのでしょ。う。

考えるに、こうして社会のために動く姿は、子どもの大きな学びにもなります。口うるさい説教ではなく、自ら動き、その背中で気づかせる姿勢は、本当に尊いものだと、教えて頂きました。

